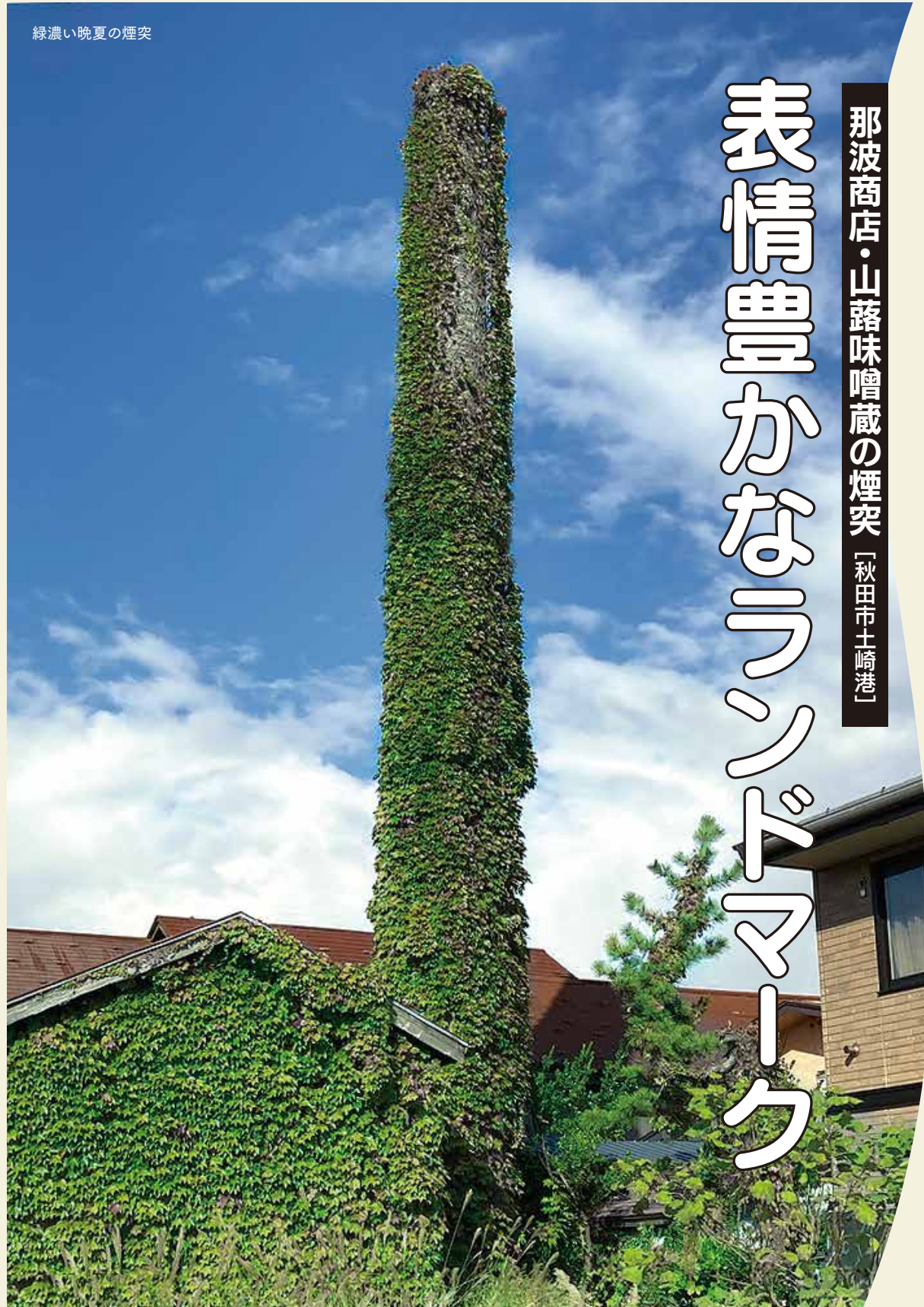


緑濃い晩夏の煙突



表情豊かなランドマーク

那波商店・山麓味噌蔵の煙突 「秋田市土崎港」

商店や住家が軒を連ねる秋田市土崎港中央1丁目の、小路からうかがえる高さ20分に達しようかという煙突。ツタに覆われ季節ごとさまざまな表情を見せる。

「春から夏は鮮やかな緑。秋は紅葉して赤くなり、冬は枯れ色に。煙突で季節の移ろいを感じる。」

「生れも育ちも中央1丁目」という会社員男性(66)。

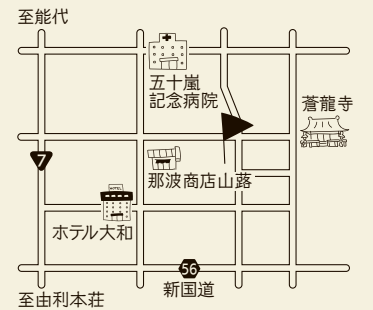
元銭湯?とも見まがう煙突は、秋田藩の御用達商人で醸造を生業とする那波商店が、みそ・しょうゆ製造のため大正年代に建てた木造木組みの蔵にそびえる。

街角



見聞録

さまざまなストーリーを秘めた地域の街角を探訪します。



那波商店山麓味噌蔵
[秋田市土崎港中央1丁目14-15]

「当時熱源として使用していた石炭の排煙を目的に設置したのですが、高度成長期の昭和30年代に石油ボイラーに切り替わり、その役割を終えたと聞いています」と那波商店代表取締役の那波尚志さん(45)。

年月を経てツタをまとった煙突は、どこか懐かしさを漂わせるランドマークであり、地域経済の発展を見守ってきた近代化遺産でもあるようだ。



秋の終わりには燃えるような赤に